

■ 町が目指す姿の具体的な検討を開始しました ■

～双葉郡北部の復興拠点として～

平成26年3月に策定した「浪江町復興まちづくり計画」では、町の復興拠点の考え方を示すとともに、「双葉郡北部の復興拠点を担う」ことを目標のひとつに掲げています。町はその目標に基づいて、浜通りの復興のために浪江町が貢献できることは何かを考え、町が目指す姿を具体的に検討するための資料を作成し、このたび町ホームページ上で公開しました。

この資料「浜通りの再生に向けた浪江町のあり方～双葉郡北部の復興拠点～」で示された検討案は、以下の考え方を基本としています。

- 浪江町のことだけを考えていると真の復興は成り立たない
- 双葉郡、浜通りは複数の自治体が支え合う中で地域が形成されていた
- 復興のためにそれぞれの自治体の強みを生かした役割分担が必要である

そのなかで、浪江町には以下のような利点があります。

- ① (福島第一原子力発電所に)近くて比較的広い土地がある
- ② 物流・人流を多角化するインフラがある
- ③ 豊富な自然資源と産業基盤がある

具体的には、国の「イノベーション・コースト構想」*に沿った形で、これら浪江町の強みを再整理し、地域全体の中での浪江町のあり方を考えました。この案に示したような産業や施設を誘致して、町の復興拠点と融合させることを目指すものです。

今後、国・県・市町村ほか関係諸機関において検討が進んでいきますが、浪江町としてもこの検討案に基づき、積極的に関与していきます。

*イノベーション・コースト構想とは、平成26年6月に国がとりまとめた「福島・国際研究産業都市構想」のこと。浜通りの産業再構築を目指すためのいくつかの主要プロジェクトが示されています。

資料の全文は町ホームページからダウンロードできます

www.town.namie.fukushima.jp/site/shinsai/8534.html

「町の復興拠点」と「双葉郡北部の復興拠点」の関係性全体像

浜通りの再生に向けた浪江町のあり方～双葉郡北部の復興拠点～

平成26年10月
浪江町

2. 双葉郡北部の復興拠点としての利点

- ① 近くて比較的広い土地がある <近い、広い>
 - ・町の復興拠点である役場周辺(中心市街地含む)は福島第一原発から概ね7km圏内。浜街道の通る津波被災地は同5km圏内。
 - ・比較的広い低線量地域であり、利用可能な土地が広大。(約20平方km。東京都港区と同程度)
- ② 物流、人流を多角化するインフラがある <ルート多角化>
 - ・浜街道は物流ルートとしての活用が期待できる。
 - ・国道6号、114号、JRR常磐線、常磐自動車道と北部・西部からのルートの確保により、南部の渋滞緩和にもつながる。
 - ・請戸漁港は緊急時の物資搬入港に指定されており、また、将来的に沿岸南部への物流港の整備も模索できる。
- ③ 豊富な自然資源と産業基盤がある <基盤産業>
 - ・低線量地域は優良農地が広がっており、農業の再生が期待される。また、請戸川が源流から河口まで町内を通っており、漁港の活用とともに農地、河川、海洋及び農産物、海産物の一貫した検査・研究への貢献が期待できる。
 - ・線量の状況も様々であり放射線医学・医療なども含め多様な研究が可能。